



炭礦労働者

—に同情す—
—與平生—

小田吉次君が巨萬の富を獲たこと、驚異の眼を放つて敬意を表した時代もあつたが、今の民衆は去程に偉くも思はぬ。一体彼の富の無産階級の働へた力に依つて得たものとすれば、常々炭礦労働者に同情して居る筆者としては或種の感を得るものである。

撤水自動車の後部からサツト水が流る。此の時一人のあややかなる婦人が通行してゐたと思ひ給へ、彼女は初夏の陽光を胸一杯に浴びて美徳ある腰つきで歩いてゐた。そこい撤水がサツト掛かつた、彼女の纏える人絹は立所にその内容値を暴露した飛んだジャンケン。既倒したなどシヤレ、その其物たるや石炭を原動力として生産された事に思ひを寄せるであらうか、空を穿つてセメントが造られる爲めには石炭なしには出来ぬ、この巨大な建築物を見るに吾等の勇敢な同胞が地下何百何千尺の所で汗を流し眞黒になつて働いてゐる姿を思ひ浮べて炭礦成金や世のブルジョア達は感謝した事があるだらうか。

毎行日曜日週
大和田印刷所
大和田印刷所
大和田印刷所

山野邊辯護士は語る 違約金と手切金

平法曹界に名を知られたる山野邊政義氏を記者訪問して男女の私通関係を抽象的見解に於て善良の風俗に反する行為なることは云ふ迄もないが、其處で此の私通関係を基礎として出来た種々の契約は如何なる効力を有するかを聞きたるを左に掲ぐ。

大平町の建設へ 警鐘を亂打する 第一回是非々座談會

御出席御願ひの諸氏へは會場等改めて御通知申上ぐべく問題は座談會席上にて發表其の會談記事は日曜日發行の本紙上へ主催 磐城之實業社

限らぬなど思ふ時此の様な事に止まりて私通を絶つてを以て目的として其對するに同情感の道に講じて先から水が出て坑内は直ちに満水し逃げ終せぬとも君の面目があらう。

輸出入

石炭	三、三〇、八四一
石油	二、七六、五八〇
香粉	四、一三、三二六
齒粉	三、九〇、一七七
合計	一、三九、三九九、四〇

均一ヶ月分を加へて一年の推定輸入額一、五二〇、六二三圓これを國産化粧料消費額と合計すると三、〇八六、二一七圓となるつまり是が毎年日本人が一年間に消費する化粧料となる譯である。

製産額

白粉	九、七五九、五八三
化粧粉	八、五〇〇、四一九
化粧水	二、七八〇、四一八
洗粉	一、四七九、八七一
香油	九、八九四、四五〇
その他	二、八七、〇二〇
合計	二、八四五、七六六

この内外國へ賣出されるものは

石炭(化粧用) 一、四九、七七一
同その他 一、五二、六一七
化粧クリーム 四九、五五七
香水と香油 四、五三、九一六
歯粉がき 一、〇二、三〇三
白粉 一、〇二、三〇三
合計 三、二二、一九八

この輸出額は一月から十一月までの統計によるものであるから一ヶ月には平均九二、〇一八圓の輸出額を示すわけで一ヶ月分を加へると一年の輸出額は三五〇、二二六圓と推定される。そこで國産統計三二、八四七、七六六圓から一年の輸出額を差引くと二九、三四一、五五〇圓といふのが國産化粧料の消費額にあたる。更に輸入品の化粧料を調ると昭和四年一月から十一月までにおいて

右至急募集す
南町(電話四六番)
大和田印刷所

文撰工一名
機械工一名
植字工一名

小錦禮讚
記者は酒を愛さぬが、高久村長で和風風流道に、小錦を贈られて妙味に、つりまさらし、酒の即興に小錦を歌詠し、情小曲を、つりあけての筆は、自問自答し、其筆に、頂戴もの、小錦の、一升瓶を、持込んだのは、友人二人、内密のこと、おぼしめさなくともいへば、

ん常に上下して居ります。現在十五キログラム三圓位で、一八一年の食米を平均(一石百五十キログラム)として其代價卅圓になり、今國民から一粒づつ

嗚呼平町長の証明書

聰明なる職能の發揮か

問題視する石城民政俱樂部の建物 改めて三十二名の所有物と成る

平町字南町七十一番一、二地内にある石城民政俱樂部は、今を去ること約八年以前の大正十一年十月石城憲政會と稱する政治結社が左記の趣意書に依つて創設されたものである。

趣旨書

本郡に於ける我が同志は年々昇天の勢を以て益々増大し來り彼の夕陽に傾ける反對黨と對比し誠に今昔の感を深からしむるのでありませう。隨て今後は之れが責任一増重きを加へ且つ最も權威あらしめねばならぬと信じます。今同有志會の上平町民友新聞支局附近に適當の地を相し左記の設計豫算を以て俱樂部を建設し常に同志諸君と相會するの場所となし遺憾なき連絡を保ち種々の出来事や利害問題を研究し且つ解決の方法を講じ度いと思へます。更に平町在住の辨護士にして最も聲望高き漆畑安齊、安藤、三先生の快諾を得て吾人同志の願望に推薦し司法行政等凡ゆる法律問題の研究依頼等の便を受ける事になりました。御承知の如く來年及再來年は縣會議員、衆

記

一、間口六間奥行四間瓦葺二階建て木造家屋一種
此建坪二十四坪外に附屬建物四坪此工費見積五千七百二十圓
大正十一年十月
石城憲政會

問題は愈々表面化する 建物所有權の保存登記

問題に愈々表面化する 建物所有權の保存登記

石城民政俱樂部は當時の申請者漆畑元吉氏の手によつて社團法人となすべき手續中なりとの今日突如として左記の形式に依つて保存登記をせらるゝに至つたのである。是れ果して正しき方法なるや

証明願

石城郡平町字南町七十一番地 申請人 若松美三
全部平町字極小路一番地 申請人 吉田五平
以下ノ申請人全部ニテ三十名ノ記載アルモ省略ス
同郡平町町五十一番地 右三十二名代人野木文彌
平區裁判所御中
物件ノ表示
石城郡平町字南町七十一番一、地内
第一號
一、木造瓦葺二階建て俱樂部
一、棟建坪三十一坪外二階坪二十八坪價格金一千七百七十圓
松、植田萬次郎、古市龜治、山崎富四郎、菅原彌作、草野三郎、鈴木英四郎、小川福太郎、鈴木盛之助、村上榮、萩原義雄、荒川淺次郎
吉田寅之輔以上三十二名ノ

各二百圓を筆頭に五百三十四名六千七百圓の寄附を得たものである。云々其後石城憲政會は民政黨となり遂に黨勢は擴大され今日の隆盛なること郡内を賑はすかの觀あり。内親すれば、糾纏甚だし二派に別れ居るもの、如く以上は俱樂部建設當時より今日までの経過なれども此處に謎の問題が突發したるを如何にせんや。

相違無之候也

町長は然も何に依つて調査し直ちに証明出来得たるか此等の証明書がなければこそ登記官吏は登記の完了をなしたものである如何に伏見町長應明なりとは云へ石城民政俱樂部が果して三十二名の所有なるかを知ら居れりや該建物に家屋税は從來何人の名義を以て附加しつ

將來氣遣はる建物 現状維持では濟むまい

町長の証明は其の當を得ず持分五十五圓三十錢となり其の故を以て不實の登記として問題の惹起する場合は伏見氏は斷じて公安の維持者には非ざるべし最後の解決するは、注に

疑はしき家調選舉人 累は此處に迄及ぶか

若し夫れ不實の登記として之を取消することある場裡に入出投票した譯となり合には今回の家屋賃借格問題は更に紛亂の巷へ道調査委員選舉人中に無資格されるものである。

忘却し閑却し居るもあらざるべし近年政争或は同志の反目の激甚にともなひ自治制をしてその

福社に即せざらむるを得ざるを遺憾として居るをして何と解釋する共、を恐れての仕打る、を敢て進進執行するのなりやや今や問題化さんとする此等証明書事件は町長としての職務の行為に屬するが如きも痛切に體驗してであらうか。

美術。迅速。至廉。
小松崎洗張本店
電話七七〇番
平町二丁目川岸通り
お電話頂戴すれば吉員直ちに御向致させます
仕上げは精々スピードを出してお届け致します

苦味辛味

石城郡民政俱樂部建物三十二名の共有物となる從來この家屋税と借地料との支拂は何人に依つ、ありしや寄附金額の筆頭漆畑、野崎氏等更に其所有權を認められず是れをして一大紛江を惹起せずんば幸也然其前者の專横を絶叫し登記手續に便せし伏見平町長を非違として糺彈するか？注視に値す

小名濱海岸埋立

工業振興の計畫意義

一致急速に方策を決すべし

小名濱海岸埋立工事の遂行に工業振興の大策として、町民の手を依つて事業計畫を實現せんとするが、町民の一部の船頭及漁夫の反對に遂着して停頓の形となり、當局に陳情となつて問題化しつゝあるが、個人埋立の費用は將來埋立地のなる方面に置くべきかは、利用は當然にして是れに依る同町が發展の弾力たるべきから多少利害の相反する表せるは、港灣都市の速成との念より一大覺醒して一致此の埋立工事とは振興の急務と協力すべきである。

協調を確保の好間路線

平町より好間村の四間道の自動車路線は好間軌道株式會社と三井自動車株式會社とが共同して、好間村の經營者は高級車に依つて十分の發車一日往復十五回、料金も一定し他路線には見られぬ同業者道徳と和合し、この經營をなすつゝあり、而して該路線は去大正七年十月創業したる前記會社が軌道敷に杉ノ澤坂を工費二萬、山崎氏と共に經營の第一線、小名濱町に於ける政友會の

ある業屋さんの話、ある客がブドウ酒を買つて来た、そこで主人一本三厘前後のブドウ酒を出したのである、と、客は「病人に飲ますものだからもつと上等のもの」と、もと此店にはそんな上物は無い、と、客は「病氣を案じ、レツタルの異つた同じ三圓のものを」と、はい、これは六圓です」と、客は満足してその三圓のものを六圓出して買つて行つたわけ、その後あれは非常にいからと三本も買ひに来たといふのである、と、その主人「へへん、さうか、商賣はこれではなけれや」とすましたもの……

公友會

其の活躍振り

花柳界秘話

博士と藝妓の色曆

平町玉川の喜代壽は芳記正と三味線に嗜味を見せ、三十に近く龜の甲より年、は懐中物の重さうな連中、功で情界切つての軍師と、かて時折、性慾發散組員、採取を終れば除名を聲明し、たり或は脱退をせしり、なごして手籠家、お座敷など、半玉共に姐さん仰向か、穴飛ぶ飛行機を見た、思ふんだが何と、工夫は、ありませぬか、でも聞、ものならそれ位のこと何、上夫も要るものですか、逆、立ちにならばいじやないか、それではお尻が……、さ、それではお尻を兼ねて、一、一、雨得で發展と云ふ事、は兎に角こんな處から習、だ、二の句つがせの鮮、増盛りのミレットルを可愛、かつて居るごか、去るにても、奥さんは十萬億士のあの世、の人となられたからには風

常によき鳥

近頃共鳴し

たのは博士

の君で毎晩の様に新しい洋食に腹ごしらひしては、診察に情意投合は浮世を、七分三分、此の喜代壽の、増盛りのミレットルを可愛、かつて居るごか、去るにても、奥さんは十萬億士のあの世、の人となられたからには風

平町研町	吉村安次郎	平町番匠町	堀江正茂	平町南町	齋藤寅吉	平町新川町	長小次郎
平町白銀町	荒木忠夫	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎
平町田町	鈴木重助	平町櫻小路	前澤文太郎	平町木町	榎田榮太郎	平町櫻小路	前澤文太郎

コールクール 防腐劑 販賣

貴方の大事なくお住居に傷んだ箇所が御座いませんか、若しあつたら御注意下さい、やがて此の隙が過ぎるとあの陰惨なもの、やがて入梅がやつて参ります、油断をしてはなりません。

屋根に……干場に……門扉に……それから、柵やタンクに……御注意下さい。

そして一刻も早くその對策を講ずべきです。

一 罐販賣を常として居ります、亦ハカリ賣も大歡迎で御座います。

一 升でも二升でも電話さし御掛け下されば市内ならば喜んで城山の高臺でも北目の端でも機敏に配達致します。

電話二六八番

一寸塗り度いと思つても容器や塗ハケに皆様が臆却の様に見受けまます故弊店では入れ物と塗ハケをお貸し致して居ります御利用下さい。

皆様……何卒少々でも結構です。

御用命お願申します。

美尚堂藥店

(ひ向堂月松) ち通町田町平

番八六二話電



ビクターレコード 六月號

◆ビクターレコードには是非ビクター針を御使ひ下さい◆

レコード番号	曲種	曲名	演奏者
五二〇	曲種	乙骨三郎詩 四葉のクローバ	獨唱 關屋敏子
五二一	獨唱	妹尾幸陽詩 ナの死	獨唱 デックス
五二二	獨唱	野村 一八七	獨唱 鶴澤清太夫
五二三	獨唱	大森 彦 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五二四	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五二五	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五二六	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五二七	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五二八	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五二九	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三〇	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三一	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三二	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三三	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三四	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三五	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三六	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三七	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三八	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五三九	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四〇	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四一	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四二	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四三	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四四	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四五	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四六	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四七	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四八	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五四九	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫
五五〇	獨唱	常磐津 馬 一八七	獨唱 常磐津三登勢太夫

レコード番号	曲種	曲名	演奏者
五三〇	映畫小唄	鈴木善太郎 作詩 ビエロ小唄	A唄 南地此八 B唄 南地此八
五二九	新民謠	時雨音羽 作詩 野澤温泉小唄	A唄 野澤三吉 B唄 野澤三吉
五二八	同	永井白眉 作詩 所澤小唄	A唄 所澤三吉 B唄 所澤三吉
五二七	同	野口雨情 作詩 豊川音頭	A唄 豊川三吉 B唄 豊川三吉
五二六	同	山陰音樂聯盟選歌 雲州小唄	A唄 山陰三吉 B唄 山陰三吉
五二五	同	山陰音樂聯盟選歌 伯耆小唄	A唄 伯耆三吉 B唄 伯耆三吉
五二四	同	青原柳源氏の白旗歌	A唄 青原三吉 B唄 青原三吉
五二三	同	降りて行く串本節	A唄 降りて行く串本節 B唄 降りて行く串本節
五二二	同	朝鮮警備の歌	A唄 朝鮮警備の歌 B唄 朝鮮警備の歌
五二一	同	お上り新節	A唄 お上り新節 B唄 お上り新節
五二〇	同	トツチリト	A唄 トツチリト B唄 トツチリト
五一九	同	じよんがら節(上下)	A唄 じよんがら節(上下) B唄 じよんがら節(上下)
五一八	同	津輕おわら節	A唄 津輕おわら節 B唄 津輕おわら節
五一七	同	大下島節	A唄 大下島節 B唄 大下島節
五一六	同	由井正雪(上下)	A唄 由井正雪(上下) B唄 由井正雪(上下)
五一五	同	天野屋利兵衛(上下)	A唄 天野屋利兵衛(上下) B唄 天野屋利兵衛(上下)
五一四	同	荒木又右衛門(上下)	A唄 荒木又右衛門(上下) B唄 荒木又右衛門(上下)
五一三	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五一二	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五一一	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五一〇	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇九	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇八	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇七	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇六	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇五	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇四	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇三	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇二	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)
五〇一	同	眞田武勇傳(上下)	A唄 眞田武勇傳(上下) B唄 眞田武勇傳(上下)

平三丁目 高倉天地堂 ビクターレコード代理店

和洋銅鐵 金物問屋

品質聲價共に拔群 磐城セメント 特約店

目丁五町平城磐 番九三 番九話電

銅像

金燈籠

平町七丁目

工藤鑄造所

貸切自動車の御用命は新型で乗心地よい昭和タクシーへ三〇年式新型セクンが入荷致シマシク

平野前 電話 三四三番